嶺南地域は約 20%のがん患者が他の医療圏で治療を受けていた。(図 1)

福坂地域と奥越地域のがん患者は約 80%が A-E の 5 つのがん診療拠点病院のいずれかで治療を受けていた。丹南地域でも約 70%の患者がが診療拠点病院で治療を受けていたが、嶺南地域では約 35%にすぎなかった。(図 2)

A-D の 4 つのがん診療拠点病院は福坂地域にあり、いずれも嶺北地方（福坂地域、奥越地域、丹南地域）全体の患者の治療を担っていた。E 病院は唯一嶺南地方にあるがん診療拠点病院で治療の対象はほとんど嶺南地域の患者だった。(図 3)

部位別、進行度別の 5 年相対生存率はがん診療拠点病院の方が県全体と比較して若干良好であった。(表 1)

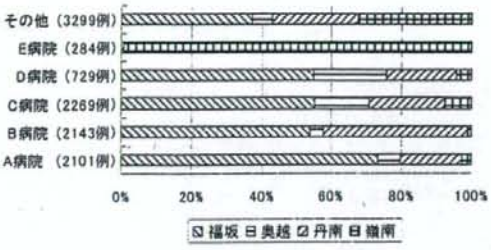

図2 病院別治療患者の居住地域

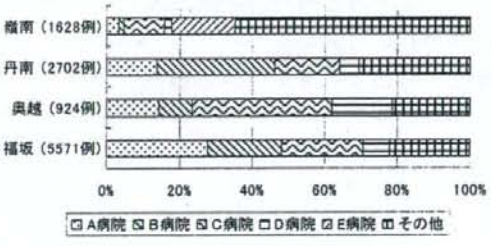

図3 患者居住地別主治療病院

4．考察

福井県では 5 つのがん診療拠点病院のうち 4 つが福坂地域にあり、丹南地域と奥越地域にはない。距離、交通事情より B 病院が丹南地域担当、C、D 病院が奥越地域担当で、図 3 からみてもその傾向はみられた。また嶺南地域には 1 つのがん診療拠点病院が存在するが、同規模の病院があと 2 つあり、治療患者数でみるとそちらの方が多かった。

福井県では元来、福井県民が県内どこの医療機関を受診しても同じようにレベルの高い医療を受けられることを目標に、臨床医の間で勉強会などのネットワークが構築されてきた。がん診療拠点病院と福井県全体での 5 年相対生存率の差がそれほど大きくないのはこれらの成果と考えらる。またそうしたネットワークのおかげで福井県の地域がん登録は届出もれの少ない精度の高い登録を維持できたと思われる。今回は主治療機関の情報でみたが、今後一般の医療機関とがん診療拠点病院との連携のあり方などを考えるには診断機関と治療機関の関係などもみる必要があると思われた。嶺北地方における一般病院とがん診療拠点病院の役割分担、嶺南地方におけるがん診療拠点病院のあり方などが、今後地域におけるがん診療体制を整備する上で考慮が必要と思われた。

表1 がん診療連携拠点病院での治療成績-地域全体の新発届出患者との比較

府県	部位	進行度	拠点病院			福井県全体*1			生存率較差
			対象数	生存率(%)	標準誤差	対象数	生存率(%)	標準誤差	
福井県									
	胃	限局	1,469	92.6	0.0174	2,081	89.7	0.0154	2.9
		領域	744	42.9	0.238	1,084	38.4	0.197	4.6
		遠隔	369	4.8	7.51	645	3.5	6.09	1.3
		全体*2	2,667	63.5	0.0	4,049	56.9	0.0	
	大腸	限局	682	87.9	0.0512	992	86.3	0.0394	1.6
		領域	583	60.3	0.2	826	58.0	0.144	2.3
		遠隔	294	9.1	4.21	470	6.9	3.5772	2.2
		全体*2	1,604	61.6	0.1	2,418	57.5	0.0	
	肝臓	限局	602	26.0	0.597	785	24.5	0.495	1.5
		領域	102	9.7	11.1	149	7.4	10.2334	2.3
		遠隔	61	–	–	101	–	–	–
		全体*2	844	21.2	0.5	1,196	18.5	0.5	
	肺	限局	341	60.8	0.293	459	54.0	0.286	6.9
		領域	400	14.2	1.9	586	11.1	1.78	3.1
		遠隔	387	1.7	17.8831	599	1.6	11.9706	0.1
		全体*2	1,249	22.7	0.4	1,962	17.5	0.3	
	乳房	限局	432	94.5	0.0267	579	94.6	0.0205	−0.2
		領域	243	76.5	0.2	317	74.4	0.141	2.1
		遠隔	38	30.7	6.6	66	26.6	4.99	4.1
		全体*2	742	84.0	0.0	1,012	81.6	0.0312	

*1 治療医療機関に関わらず府県全体の成績

*2 進行度不明例を含む。